

きほく川柳会

給料日これではしばらく生きられる

都 瞳

しばらくは名前忘れたまましゃべる

合田 悦子

ストレスがとれるお喋りティータイム

宮岡 沙代

シミとれるだろうか迷うコマージュナル

金子すすむ

解らない絵画の前で立ちすくむ

吉井 興一

一枚の絵は感動の湧く泉

渡辺 光男

独裁者がすぐに踏み絵を出してくる

宇都宮 孝

鉢巻を締めて勝負の顔になる

栗木 一郎

介護せぬ人が延命措置を言う

宮川 柳酔

看取るまでオシドリでゆく裏事情

森本 幸美

言にくい便りは文字もなぐり書き

加藤 桂子

老いたのか会話だけでも気が晴れる

武田 浅美

月食に月も暇みて化粧する

宇都宮 忍

敗戦の語り部はもうセピア色

財前 溪子

ゆきの上あるいてみるとおとがする

小二 山田 清也

こたつなかきもちがいいなみんなきて

小三 梶野 海斗

さんぽいくいっぱいあるくあせがでる

小三 石崎 海士

プレゼントもらうとすぐウキウキだ

小六 菅本 聖羅

雪がふる冬の夜空にプレゼント

小六 吉良ちひろ

いいことがあると笑顔があふれるよ

中一 清原 沙耶

これからも未来へむかって歩いてく

中三 宮川 直輝

ティータイムテラスでほっとひと休み

中三 榎 美咲

物買うとついてくるのは消費税

中三 上岡 夢菜

泣く人生よりも笑ってすごしたい

高一 榎 美琴

人間は辛いときこそ笑うんだ

高二 清原 賢斗

冬の恋一役買った白い雪

高二 山口 悠李

買わないがついつい見入るショーケース

高三 梶田 拓也

我が道を歩く人生一度きり

高三 清原 彩香

竹の子川柳会

鬼北の足跡を辿る…【第12回】 近永代官所跡

「越後屋、おぬしもワルよのお」。勧善懲悪の時代劇のワンシーン。悪徳商人と癒着した悪代官が、菓子箱に詰められた「山吹色のお菓子」を前に交わすお馴染みのフレーズである。

それはさておき、江戸時代、鬼北町内では宇和島藩が近永に代官所を設置していた。この近永代官所は、宇和島藩の郡奉行の支配下にあつて近隣の宇和島藩領（鬼北町では牛野川、北川、奈良、芝、近永、永野市、中野川、広見、下大野、中尾坂、清水、生田、畔屋、大宿、西野々、小西野々）を掌握し、村方役人である庄屋の指揮監督にあたっていた。



現在の代官所跡の様子

代官所は年貢の徴収事務および郡奉行と庄屋の間の往復文書の中継するなどの重要任務があつて、司法警察権についてはあまり強力なものではなく、軽犯罪に対する即決権が与えられていたにすぎなかった。しかし、権威はすこぶる強力であつたようである。

「伊達秘録」によると、寛政五年（1793年）吉田騒動（武左衛門一揆の際、一揆の指導者・武左衛門は、近永代官・友岡栄治、藩命を受け近永に駆けつけた吟味役・鹿村覚右衛門らと応対し、この成行きを申し述べ通行の許可を願ひ出るとともに、山奥筋の百姓の願書を提出している。このときの武左衛門の応対が「ひとときわ分別あり」と、友岡代官や宇和島藩の役人たちを驚嘆させたことが伺える。のちに吉田藩が、武左衛門を「一揆の頭取」と決定づけた背景には、このときの宇和島藩とのやりとりが大きく影響しているともいえる。

その表舞台となつた代官所跡は現在では畑となり、当時をうかがい知ることとはできない。